

3年

企業や大学への見学を行い、普段の学校生活では得られない専門的な知識を身につけることができました。また外部で得た学びや自分たちで提案した省エネ方法を学校へ導入した結果、電力使用量の削減という成果が数値として表れ、知識を具体的な実践へ移すことの重要性を実感しました。

さらに学校に貢献しようとする責任感が芽生え自ら考え行動しようとする姿勢を養うとともに、これを機に省エネ意識が高まり、日常生活の中でも継続して取り組んでいきたいと考えるようになりました。

この素敵な活動に参加できたことを貴重な経験だと感じています。



3年

省エネ推進委員として活動する中で、普段関わることのない方々と話し合える貴重な機会をいただきました。立場の異なる方々の前で自分の意見を伝える経験は大きな成長となり、受験の面接では自信につながりました。活動当初は呼びかけが成果につながるか疑問を抱いていましたが、百万円以上の削減に成功したと知り、その効果に驚くとともに達成感を得ました。また、課題に対し多様な視点から解決策を考え、アイデアを出し合う過程に楽しさを感じました。そして、最後までやり抜く力と主体的に取り組む姿勢を身につけることができたと感じています。この経験を大学での学びに活かしていきたいと考えています。このような貴重な機会をくださりありがとうございました。

1年

私は、省エネ推進委員として活動する中で、ちょっとした意識や心がけによる影響力の大きさを学べました。「移動教室のときに電気を消す。」この一つだけでも意識して生活することで、その一回は小さなものでも、一日、一週間、一か月と経つことに目に見えて結果が現れていきました。また、みんなで協力して活動することの大切さにも気付きました。少人数だけでできることは限られますが、みんなに呼びかけて全体に省エネの意識を持ってもらうことで、移動する際に一人ひとりが電気やエアコンなどを消してくれるので、より結果が顕著に現れました。この2つのことは、どのような分野でも大事なことなので、この一年間での活動で学べたことをこれからの生活に活かしていきたいと思いました。

省エネ推進委員会の活動をともして

教諭 新井 喜人

令和6年4月の開校記念講演で「人材を切らずに電気を切る」として、地元の栄光製作所・勅使河原代表による講演が実施されました。これが本校「省エネ委員会」設立の出发点です。

栄光製作所は2016年に中小企業では日本初の「省エネ大賞」を受賞しています。代表の強い意志のもと従業員が共通意識を持って熱意ある取り組みがなされていく感銘を受けました。その後も全国の名だたる大企業の幹部が視察に訪れるほどの偉業を成し遂げたことになりました。

講演後に、代表の御厚意と熱意により富高でも省エネの取り組みができるはずと生徒・職員の間でも気運が高まり、おそらく全国で唯一の「高等学校で生徒による」省エネ活動が始まりました。はじめは「省エネ推進チーム」として勉強会からスタートしました。温暖化やカーボンニュートラルに関連した環境・社会の取り組みの勉強、電気料金の仕組みなど現実的な課題への問題提起、さらに前橋工科大学教授による建築と空気の対流の関係まで幅広く学習し、実験など体験しました。

活動は冷房・暖房の合理的な使い方をまず重点課題として、そのための全校への働きかけを工夫して活動しました。PR活動としては放送や集会時の呼びかけ、文化祭でも来場者たちを配布しながら周知を図りました。電気料金はほとんどの月で前年より減少という成果を収めることができました。

私たちはただ富岡高校が成果を残せたらいいと考えてはいけません。エネルギーの再利用や新たなエネルギー

の確保などは社会の大きな課題です。人類が自然の摂理を破壊した結果、異常気象の影響で災害が絶えません。こうした事態を改善するためには全ての人がエネルギーの利用者であり排出者でもある自覚と責任を持たなければなりません。一部の人間による無責任な行為がすべてを台無しにしてしまう可能性もあります。栄光製作所がお手本を示す通り、みんなが同じ意識を持ち、成し遂げるといふ団結力が必要です。この団結力は学校の力となり、単なる省エネ活動にとどまらず、学業や部活そして生徒個々の活動の力となり成果を上げていくものと考えます。

省エネの取り組みがステップアップし、皆さんが世に出たときの大きな力につながるようにこの活動がさらに推進されることを期待しています。

編集後記

令和6年9月、富高省エネ推進チームの発足に集まってくれたボランティアのメンバー、令和7年度省エネ推進委員として協力してくれた委員会のメンバー、また、省エネを意識してくださった生徒、教職員のすべての皆様に感謝申し上げます。

さらに、栄光製作所の皆様、前橋工科大学の皆様、同窓会のお力添えなくして、この活動は行えませんでした。厚く御礼申し上げます。

富岡高等学校 事務長 名古屋 佳弘

省エネ推進委員会通信

発行
群馬県立富岡高等学校
省エネ推進委員会
発行日
令和8年2月27日
印刷／三協印刷

題字：横尾隆聖

『未来へ紡ぐ』

株式会社栄光製作所 代表取締役 勅使河原 寛

「人材を切らずに電気を切る。」

時代の荒波に飲まれながらも、当社、栄光製作所は人材を切らずに「省エネ（節電）」という一つのキーワードを通じた「仕組み作り」と「社員一丸の取り組み」で経営危機を乗り越えてきました。

当時は夢にも思いませんでしたが、それらの活動が、国や自治体より「省エネ大賞」を含む名譽ある表彰へと繋がっており、現在では全国の「GX（グリーントランスフォーメーション）推進」の視察対象としてご注目いただけるまでの取り組みとなりました。

現在、縁あって富岡高校の皆さんと共に「学校の省エネ」に取り組んでいます。きっかけは、令和6年春の「開校記念式典」での講演でした。生徒の皆さんの感想文に心うたれ、「この未来ある学生たちに、省エネを通して我々の経験値を共有していきたい」と感じ、当時校長の悴田先生、事務の名古屋事務長へ省エネプロジェクトを提案させていただいたのが始まりです。

当時、始動するにあたり有志を募ったわけですが、「一人も来なかったらどうしようか」と冗談話が出るほどに、生徒からの「実際の反応」は未知数でした。ですが、そんな我々大人の不安をよそに、20名を超える生徒の皆さんが「チャレンジしたい」と集まり、結果的にそのメンバーらと、年間100万円以上の電気代削減を達成すること

になりました。令和7年春からは組織体制が「省エネ委員会」へと格上げされ、現在、より多くの生徒が学校の電気代という「身近な課題」について考え、改善につなげようと動いてくれています。

私自身の捉え方の一つとして、省エネとは「エネルギーを省くこと」ではなく「エネルギーを省みること」であると考えております。普段、意識などしていなかった電気等のエネルギーが「どこでどのように使われているか」を知ること、あらゆる課題に対する解決の糸口が見えてきます。そして実際に取り組みをはじめると、「何事も一人だけでは、なしえない」ということに気が付きます。つまり、生徒の皆さんは省エネを通して、単なる節電のテクニックではなく、仲間と共に悩み、考え、経験し、「心の視野を広げること」そして「チーム一丸となることの難しさ」と、実現した際の心強さを学んでほしいと考えています。

最後に、富岡高校の省エネ委員会は「生徒が主役の取り組み」です。我々大人は手段と方法を共有し、生徒を「良い気付き」へ導きながら、最後には「大きな学びと成長」へ共に到達する「パートナー」としての役割を全うしていければと思います。そしてこの取り組みが、日本、そして世界へ、生徒たちがはばたいていく「きっかけ」となることを願って止みません。

なにことも、なせば成る！ よき出逢いを。

省エネ推進委員会の活動を通して

省エネ推進委員会委員長 2年

省エネ推進委員会は、栄光製作所や前橋工科大学の教授などに協力していただきながら富岡高校で省エネ推進活動を行っております。

僕が省エネ推進委員会に入って良かった点は2つあります。1つ目は、自分自身がより身の回りの電力を無駄にしないようにこまめに電気を消したり、ストーブや暖房などのスイッチのオンオフなどをよく確認するようになったことです。これにより僕自身が以前より省エネ活動に力を入れていきたいと思うようになりました。

2つ目は、放送や文化祭などでの呼びかけ等により、全校生徒に省エネ推進をすることができて、結果が出たことです。この活動に学校全体を巻き込むことができ嬉しかったです。まず文化祭では、前省エネ推進委員長がデザインした、省エネを推進するうちわを配布しました。このことにより、省エネ推進委員会がどのような活動をしているのか学校内外にPRでき、省エネを意識してもらうことができました。

また、各クラスの省エネ推進委員によるホームルームで月の消費電力量を伝えることで、富岡高校の全生徒に、

省エネ活動にどのような効果が出ているのかを知ってもらい省エネを推進することができました。みんなの協力により消費電力量が少なくなっており、結果として払う料金が減少しているのが昨年や一昨年に比べて増えたという結果につながりました。省エネ推進委員会の活動により、夏休みなどスタホ（学習室）で勉強する時や部活動で空き教室などを使うところで、使用していない時は電気を消すなど無駄にエアコンをつけないなどの行動を徹底してくれたことや、移動教室などでは、こまめに教室の扉を閉めることで、全校生徒が大事に電気を使ってくれたことが、とても嬉しかったです。

省エネ推進委員長として省エネ推進活動を行って、省エネ推進委員会に入っていない生徒も省エネ活動に協力してくれて、学校が一丸となって頑張っているのを感じ取ることができて良かったです。今後は、もっと省エネ推進委員会のメンバーを増やして、活動の幅を広げていくことを目指して頑張ります。



1 省エネ推進の目的

- ①学校予算（税金）の削減、電気代を含めた光熱水費を削減すること
- ②カーボンニュートラルの実現、脱炭素、温暖化防止に寄与すること

地球温暖化の防止

いま地球で起こっていることとして、地球の周り、目に見えない温室効果ガスにおおわれ、本来宇宙に出ていくはずだった熱が溜まってしまい、近年地球温暖化が進んでしまっています。その結果、北極・南極の氷がとけ、海面上昇が発生し、南の島などが海に沈んでしまい、人が住むことができなくなってしまうかもしれないと言われています。

猛暑や、スーパー台風、豪雨による洪水など、さまざまな異常気象が発生しており、これらが地球温暖化の影響かもしれない。温室効果ガスのほとんどはCO₂（二酸化炭素）です。

カーボンニュートラルとは

- CO₂（カーボン）が中立（ニュートラル）であるということ
- プラス（排出）とマイナス（吸収）のバランスが取れていること

何もしないとCO₂が増えていってしまいます。さまざまな取り組みにより、これまでのCO₂排出量を減らし、それでも減らさなければならない部分は、CO₂を吸収する動きがある木などを植えて吸収を目指します。出した分を吸収して相殺します。

2 省エネ推進チームの活動報告

令和6年9月30日、富岡高校省エネ推進チームが約20名で発足しました。このチームは、富岡高校が生徒に対してボランティアとして呼びかけ結成したチームです。

令和6年度の活動

- 10月 電気代のしくみを勉強しました。
- 11月 「省エネ大賞」を受賞された榊栄光製作所を視察させていただき先進的な取り組みを勉強しました。このようすは、令和6年11月、群馬テレビで放送されました。



令和7年度の活動

ボランティアチーム ⇒ 委員会へ

- 4月 省エネ推進委員会の発足（第1回）
このようすは、上毛新聞社の取材を受け、令和7年5月、新聞記事となりました。



令和7年5月5日（月）
（上毛新聞）

- 5月 電気代のしくみを勉強（第2回）
- 6月 取り組みについて（第3回）
 - ・見える化：電気最大の電力・使用電力量・料金を記したプリントを省エネ推進委員会のメンバーが各教室に掲示しました。
 - ・昼休みに、省エネ推進委員会副委員長による省エネの呼びかけ（校内放送）

うちわの作成・配布

文化祭の一般公開時に、来校者の方へうちわを配布し、省エネ推進活動と省エネをPRしました。



朝の節電呼びかけ

7月の暑い朝でしたが、省エネ推進委員みなで生徒へ省エネを呼びかけました。



呼びかけのようす ▶

省エネポスターの作成

全校生徒に省エネを意識してもらうため、省エネ推進委員が作成したポスターを生徒玄関に掲示しました。



- 12月 班に分かれて今後の取り組みについて話し合いを行いました。



⇒ 生徒目線で節電できることを見つけ、全校に呼びかけました。

「一人ひとりの意識を変えていき、学校全体で取り組みを継続したい。」

クリスマスケーキ販売時の省エネPR（放送、チラシ配布）



- 1月 前橋工科大学 環境・デザイン領域 三田村教授の講義
省エネルギーシステムなどを研究している大学の先生をお招きしてお話を伺いました。

- トレードオフの関係
（一方を尊重すればもう一方が成り立たないこと）
感染防止のために換気をするのは大事です。一方で換気しすぎると冷暖房エネルギーが増加してしまいます。両立できない関係性を試行錯誤しながら探っていく必要があります。

- 2月 前橋工科大へ視察を行い、施設などを見学させていただきました。



- 3月 班で話し合った意見をまとめました。
令和6年度は、電気代を約116万円削減することができました！
全校生徒、教職員が省エネを意識し、ご協力いただいた成果だと思えます。ありがとうございました。

- 7月 遮熱シート設置（第4回）
教室に入ってくる太陽の熱を少しでも防ぐ目的で、省エネ推進委員会のメンバーで3階の教室の窓に遮熱シートを貼りました。



節電意識の向上に生徒主体で様々な活動に取り組みました！

- 9月 榊栄光製作所様の講義（第5回）
なぜ省エネに取り組むのか、電気料金のしくみを再度確認しました。
- 10月 スモークテスター実験（第6回）
前橋工科大 三田村教授のご協力により、スモークテスターを使用し、暖房と冷房使用時の教室の空気の流れを確認しました。



- 12月 班に分かれて今後の取り組みについて話し合いました。（第7回）

【生徒からの意見一部抜粋】

- ・日直にON、OFFの管理をさせる。（節電の意識に繋がる）みんなに浸透するようにする。
- ・照明は、明るくする時は、廊下側だけつけるようにする。（窓側はつけない）
- ・教室のドアにポスターを貼る。（見る機会を増やす）
- ・「ひざかけ」使用している人は、教室に置いたままにすることができない。（定時制と共有している教室）
→各階、学習室のロッカー等に置く場所を確保する。

- 2月 省エネ推進活動の振り返りを行いました。



令和7年度は、電気のデマンド（最大電力）を206kwから194kwへ減少させることができました！
デマンドの減少に伴い基本料金（単価×数量）も減少しました。デマンドが200kwを下回ることは画期的で、生徒、教職員が省エネを意識し、ご協力いただいた成果だと思えます。ありがとうございました。
今後の課題としては、一人一人の意識は以前より変わってきましたが、省エネを継続していく難しさを痛感しています。